

令和6年度第2回

## 函館市廃棄物減量等推進審議会会議録

開催日時	令和6年12月6日(金) 14時00分～16時30分
開催場所	函館市役所8階第2会議室
議案	1 第4次函館市一般廃棄物処理基本計画について [公開] 2 その他 [公開]
出席委員	青山森一委員, 一戸裕之委員, 柿崎陽子委員, 亀井佑樹委員, 川口勝也委員, 平沢秀之委員, 宮崎良一委員, 宮下勝弘委員 <p style="text-align: right;">(計8名)</p>
欠席委員	川口健治委員, 菅尚広委員, 清藤千鶴子委員, 本間税委員, 松崎静江委員, 宮越隆弘委員, 横向いず海委員 <p style="text-align: right;">(計7名)</p>
事務局出席者職・氏名	小林利行環境部長 田中修一環境部次長 畠山裕二環境推進課長 高田直樹埋立処分場長 浜口哲一環境推進課主査 高橋一也環境推進課主査 佐藤弘康環境推進課主査 廣島菜菜子環境推進課主査 佐々木将汰環境推進課主任主事 野口智子環境推進課主事
他出席者	報道機関 2名

高橋主査	<p>それでは定刻になりましたので、ただいまから、令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。</p> <p>本日は何かとご多忙の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の進行役を務めます環境部環境推進課の高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>函館市では、今年度からノーネクタイ等のナチュラルビズ、軽装勤務を通年で試行しておりますため、本日は皆様のご理解、ご了承をいただければと思います。</p> <p>それでははじめに、本日の審議会は委員15名中、8名の出席がございますので、函館市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第3項の規定により、審議会として成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>なお、本審議会の議事録につきましては、後日、市のホームページで公開いたしますので、ご了承願います。</p> <p>続きまして、本日の資料の確認をしたいと思います。先日、皆様に郵送しております、一つ目が「次第」、次に、資料1の「概要」になります。そして、資料2の「第4次函館市一般廃棄物処理基本計画の素案」と、資料3として「参考資料」となっておりますが、もし本日お持ちでない方がいらっしゃいましたら、お申し出ください。</p> <p>また、本日机上配付の資料ですが、「第4次函館市一般廃棄物処理基本計画について（諮問）」の写し、次に、「第5節ごみ処理事業費」、これは先に送付しました資料2の「第4次函館市一般廃棄物処理基本計画素案」の26ページの差し替えとなりますので、裏の27ページと合わせて差し替えをお願いしたいと思います。</p> <p>このほか、令和6年度（2024年度）清掃事業概要、黄色い冊子ですが、そちらを配付しておりますので、不足があるようでしたら、お申し出ください。お揃いでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは議事に入りたいと思いますが、今回は計画策定ということで、通常より少し長めの時間を要することが見込まれますため、途中休憩を挟んで、2時間程度を目安に進行したいと思います。</p> <p>それでは、規定により会議の議長は、会長が務めることとなっておりますので、平沢会長よろしくお願いいたします。</p>
平沢会長	<p>本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>会長の函館高専の平沢でございます。</p> <p>本日の廃棄物減量等推進審議会におきましては、委員の皆様のご意見、あるいはそれぞれの視点から活発なご討議をいただき、有意義な議論ができれば幸いかと考えております。</p>

	<p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、「第4次函館市一般廃棄物処理基本計画について」ですが、始めに、審議会への諮問についてご説明願います。</p>
小林部長	<p>環境部長の小林でございます。</p> <p>市長より審議会会長あての諮問書につきまして、写しを皆様の机の上に配付してございます。</p> <p>それでは、私から改めて読み上げにより諮問をさせていただきます。</p> <p>「函館市廃棄物減量等推進審議会条例第2条第1項第2号の規定により、第4次函館市一般廃棄物処理基本計画について貴審議会の意見を求めます。」</p> <p>以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
平沢会長	<p>それでは、議題の1「第4次函館市一般廃棄物処理基本計画について」、ただいま諮問がありましたので、素案について、皆様からご意見をいただき、答申を取りまとめることとなります。</p> <p>さっそくですが、資料1の「第4次函館市一般廃棄物処理基本計画（素案）の概要」について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
畠山課長	「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）の概要」について説明
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆様方からご意見を願います。</p>
委員	(意見、質問等なし)
平沢会長	<p>私の方からよろしいですか。</p> <p>概要ですが、これは、先ほどの諮問に対して答申する場合、次にご説明いただく基本計画の本体の部分とは、別紙の形で答申するという事によろしいですか。</p>
畠山課長	<p>答申は素案本体に対するものです。本体をまとめたものがこの概要版で、まとめただけで同じものですので、あくまでも素案本体に対してということをお願いします。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、他はいいようですので、続きまして、資料2の計画の素案について、量が多いですから、分割して順次審議を進めたいと思います。</p> <p>まず、始めに、第1部「総論」の部分から始めたいと思います。</p> <p>事務局からご説明をお願いいたします。</p>

畠山課長	「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）」第1部「総論」について説明
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の皆様から、ご意見などをお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>ここに書いているのは、事実をそのまま書いているところです。何かお気づきの点などありましたら、お願いします。</p>
委員	（意見、質問等なし）
平沢会長	<p>よろしいですか。</p> <p>それでは、次の第2部「ごみ処理基本計画、食品ロス削減推進計画」第1章「ごみ処理の現状」および第2章「第3次計画における数値目標の検証」につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
畠山課長	「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）」第2部「ごみ処理基本計画、食品ロス削減推進計画」第1章「ごみ処理の現状」および第2章「第3次計画における数値目標の検証」について説明
平沢会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>ではただいまのところ、第2部の第1章と第2章ですが、ここでご質問、ご意見などはございませんでしょうか。</p>
宮下委員	<p>一点よろしいですか。</p> <p>30ページに、他都市との比較ということで、先ほどのご説明にあったとおり、リサイクル率が全国的に減少傾向にあるということをお伺いしましたが、どういう要因で下がっているのでしょうか。</p> <p>他都市についても、リサイクルを一生懸命頑張って、全国自治体頑張っているにもかかわらず、リサイクル率が減少傾向にあるというのがちょっと納得いかないといいますか、どのような理由が挙げられるのでしょうか。もし分かっていたら、お聞かせ願いたいと思います。</p>
畠山課長	<p>まず、先ほども少しご説明しましたが、新聞や雑誌類が、どんどんデジタル化などが進んで、新聞などをとる人が減ってきています。紙類は資源回収などに出せば、それがリサイクル率に反映されますが、そもそも出すものが減っている、それが一つ大きい要因としてあります。</p> <p>それから、缶やびんが、どんどんペットボトルに転換してしまっていて、数は変わらなくても、重さでカウントしていった場合には、ペットボトルの方が軽くなるというところが、またリサイクル率を伸ばさない一つの要因と考えられます。</p>

	<p>あと、最近、民間事業者が資源物を集める拠点を作ったり、スーパーの店頭回収があったりなど資源物の回収がどんどん拡大されている中、その量がなかなか把握しきれないところで、リサイクル率の計算の中に入っていないということです。そちらに流れて資源化されることはいいことですが、なかなかリサイクル率に反映することができないので、数字が伸びていかないといったことが考えられます。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございます。あとはいかがでしょうか。</p> <p>私からよろしいですか。</p> <p>28ページの(3)他都市との比較とあって、「原単位、家庭系原単位は、全国平均、全道平均および中核市平均より多くなっています」と書かれています。これは、下に要因も書かれています。結果から函館市として特有な部分が出ているのでしょうか。例えば、ここに挙げられている世帯の構成人数、他都市でも全国平均よりも少ない都市は、やはり同じようなごみが多い傾向にあるのか。</p> <p>他の観光都市では、やはりごみが多い地域があるとか、なにかそういう分析や具体的事例など、もしあればお願いします。</p>
畠山課長	<p>他都市の具体的な事例は、手元にはないところではありますが、世帯の人数につきましては、1人世帯のごみの出す量が2人世帯で倍になるかという、一つの世帯で決まったごみは必ず出ますので、必ずしも2倍にはならないというのがありまして、そういった意味で世帯の人数が少ないとか1人世帯が多い状況になりますと、原単位が多くなるということです。</p> <p>あと観光都市ということで、原単位なので事業系のごみも含めまして人口で割り返す、そういう値ですので、例えばホテルから出るごみは人口が減ったとしても量は変わらないと。そういうごみの割合が高くなると、人口が減っても、原単位が減っていかない。ごみの量が減らなくて、人口が減ると原単位は増えてしまう。そういうような形でこの部分は考えておりました。</p>
平沢会長	<p>今の理由となるべきことをもう少し詳しく書いたらいいのではないですかね。</p>
畠山課長	<p>参考とさせていただきます。</p>
平沢会長	<p>函館市は他都市と比べてごみが多いというところが目立ってしまう気がしますので、考えられる理由をもう一文くらい追加する形で書くと良いと思いました。</p> <p>皆様からも他にありますか。</p>

<p>一戸委員</p>	<p>やはり今のように、ただ数値というよりも、他都市と比較という方が我々も状況が分かって、今、会長さんが言ったように一言説明があると、この原単位が多いというのが分かりやすいと思います。</p> <p>次に数値目標にいくと思いますが、本市の特徴というか傾向というところで、やはり他都市との比較が一番自分も聞いていて分かりやすかったです。</p> <p>食品ロスの部分については、函館市の排出が少ないという傾向にはあると押さえていいんですね。20ページで、食品ロスの排出量が全国に比べて少ないというのは、また国も何か傾向があるのであれば、一言そこに補足があれば、これに向けてまたさらに、食品ロスの排出量を減らしていこうという目標につながる。</p> <p>今の数値の現状よりもこれから何か持っていくかたといいますか、傾向を知るだけで何かスキームが見えてくるのかなと思って、説明を聞かせていただきました。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>市の食品ロスの現状は、ずっと前からやっていたわけではなく、令和元年に法律が施行されてからですので、もう少しデータを集めてから、また市の施策につなげていきたいと考えております。</p>
<p>一戸委員</p>	<p>あくまでも、令和4年度の単年度の結果ということですね。分かりました。</p>
<p>平沢会長</p>	<p>ありがとうございます。あとはよろしいですか。</p>
<p>委員</p>	<p>(意見、質問等なし)</p>
<p>平沢会長</p>	<p>19ページから21ページのグラフですが、例えば19ページの中には、不適正分別13.8%というところがありまして、他は適正分別と考えていると思いますが、これは本来ならばここに分別されるべきものじゃないものが混入した、そういう意味での記載ですか。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>19ページでお話しますと、燃やせるごみということで、例えば、「紙類(資源物)」と書いている6.6%になりますが、分別からいきますと、紙は燃やせるごみで間違いないので、不適正とまでは言えない部分はあるんですが、これを例えば資源回収に出したとすればリサイクルされます。そういったものなので、市としても資源回収などに出してくださいとお願いしております、今回の中では、不適正という表現でそういうものも含めて記載させていただいています。</p>
<p>平沢会長</p>	<p>ありがとうございます。ごみ収集の時も、何曜日は何のごみと捨てるものが決まっていますので、そこで間違っ捨てられていたり、不適正な時があった場合は、そもそも回収していないのですか。</p>

畠山課長	基本的に、収集作業員が、異物などが入っているものは、警告シールというのがありまして、そのシールを添付してごみは収集しないことになっています。
平沢会長	もしその場合だったとしても、それはカウントできないから、この統計には入ってこないですね。
畠山課長	はい。
平沢会長	分かりました。ありがとうございます。 他にはいかがでしょうか。 それでは、この辺りで休憩を一回予定していましたが、よろしいですか事務局。それでは、一旦ここで休憩を挟みまして、14時55分から再開するというようお願いいたします。それでは、休憩時間にします。 (休憩) 会議を再開いたします。 31ページまで終わったところですが、続きまして、32ページ、第3章「ごみ処理の課題と今後の方向性」、ここからは今後の方向性について、特に大事な部分に入っていきます。 それでは事務局から説明をお願いします。
畠山課長	「第4次一般廃棄物処理基本計画(素案)」第2部第3章「ごみ処理の課題と今後の方向性」について説明
平沢会長	ありがとうございます。それでは、ただいまの説明で、ご質問、ご意見よろしくようお願いいたします。 ここは課題と方向性で、具体的な数値はないです。こうした方向性の考え方、こういう方向性でいいかどうか、ご意見をよろしく申し上げます。
宮下委員	今後の方向性、これについては特に質問とかではなくて、これで良いという気はしております。なかなか大きく変えるというのも大変なところでもありますし。その中で、食品ロスがかなりごみの割合を占めているというところから、ここに着手していくというのはすごくいいことという気はしています。 少し気になったといいますか、普段から思うことですが、古着の回収についてです。これって集団資源回収に出しても、例えば白い綿類でないとかだめですよというものもあったりして、古着のジャンパーを持っていても、資源回収で持っていかないということがあります。そして、家族が亡くなった時など、着物なんかがたくさん出てきて、ごみとして捨てるにはもったいないということで、リサイクルショッ

	<p>プに持って行って、引き取ってもらいました。その際に引き取ってもらえたのが半分までで、向こうも商売なので売れるものしか引き取らないです。売れないものは持って行き先がない、そうすると、この古着が行き先がないです。そういうことがありまして、従前からもう何年来の問題だと思いますが、古着はなかなか難しいですね。袖を通してない新しいものであれば、例えば被災地に送ることもできますが、本当に着古したとか穴が開いたものというのはだめですという中で、この古着の部分をもう少し力を入れた何か方策があれば、より良いという気はしています。札幌の業者が買い取りに来るとというのが過去にはあったみたいですが、それもやはり時代とともに無くなったとか。</p> <p>今は拠点回収もやっていると思いますが、なかなかのすごい量の古着が出るので、そこら辺がもう少しできないか、良い方法があればいいという気はしますので、よろしくお願いします。</p> <p>以上です。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も古着に関しては、同じような気持ちを持っております。委員の皆さんで何か古着のリサイクル、再活用について、良いアイデアやこんな例があるなどお持ちの方いませんか。</p>
亀井委員	<p>私が今所属している企業では、宅配という形で古着の回収のサービスをしていますが、前の説明で、民間業者が取引しているところについては、数字上反映されないという話もありましたし、リサイクルのお話を聞いていた時も、重量で量っているために、量は減ってしまう。表上、数字上、グラフ上は悪く見えてしまうというところがありますので、皆様のせいではないと思いますが、計算式といったものが変われば、きっと自分たちがリサイクルをしていて、実際に数値が上がったと実感できると思います。頑張ってリサイクルをしても、数字上抜けてしまうところはちょっと残念だと思うので、市民の皆さんが取り組んでいることがグラフであったり、こういったもので目に見える形になるといいと思います。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の件に関して、事務局から何かコメントはありますか。</p>
畠山課長	<p>古着に関してですが、リユースという部分でいきますと、今、市の拠点回収では、契約を結んだ中で民間事業者さんがリユースしている形ですが、主に東南アジアの方について、また着てもらおうという方法になっていまして、海外ということなので、先ほどの着物などが対象外になってしまったりというのがあります。その他に、ウエスに再加</p>

	<p>工するという方法もあり，資源回収で，綿が何%でなければというのは，もう一度何かに作り直すために，そういう材質のものに限定しているのです，その処理ルートごとに回収できるものが変わってくる部分があります。</p> <p>コロナ禍では，処理ルートがすごく限定されてしまってなかなか出来なくなってしまっていた部分がありまして，最近になってだんだん回復して，回収できているような状況になっています。</p> <p>このような様々なルートを見つけながら，市民の方が出しやすいような取組を考えていきたいと思っています。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございます。ぜひご検討いただければと思います。</p> <p>では，今後の方向性という点では問題ないと思いますが，ただいまのような，古着に関して具体的にこういう方向性でというのは考えられます。</p> <p>他に第3章の部分に関して，皆さんいかがでしょうか。</p>
委員	(意見，質問等なし)
平沢会長	<p>それでは続きまして，第4章「基本方針と数値目標」についてです。本章はこの計画の要の部分のところですので，分割して審議したいと思います。</p> <p>それでは第1節の「基本方針」について，事務局から説明をお願いします。</p>
畠山課長	「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）」第2部第4章「基本方針と数値目標」第1節「基本方針」について説明
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは，ただいまのご説明，33ページ，第1節「基本方針」，基本方針の1，2，3，4とありますが，書かれている内容および表現や文言も含めて，皆さんの方からご意見をお願いしたいと思います。</p> <p>ちょっとでも気になる場所があったら，ご指摘をお願いします。</p>
委員	(意見，質問等なし)
平沢会長	<p>私の方からお尋ねします。</p> <p>基本方針の4，適正なごみ処理体制の確保と書いてありますが，令和7年度からスタートするという基本計画なので，この計画期間中に，ごみ処理体制が今とは違う体制に変わっていくのか，良くなっていくのか，何か違いが出てくるのか。日乃出清掃工場の改修工事はやっていますから，そこはよく分かりますが，それも含めてごみ処理体系全体について，今後どういう影響があるかをお願いします。</p>

<p>畠山課長</p>	<p>10年先までのことですので、はっきりとは言えない部分がありますが、令和16年度までということでは、大きなところはなかなか難しいとは思っている中、今後の方向性の中で、32ページの2の「ごみの再資源化の推進」のところで少し書いていますが、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律に基づいて、プラスチック使用製品廃棄物の分別収集、再商品化の実施の検討ということで、変わっていくことはあるかもしれません。</p> <p>また、後ほど、施策の部分で出てきますが、新たなごみ処理システムの検討の部分について、令和7年度から基本構想の策定に着手していくという部分があります。そちらも令和16年度までの期間の中なのかといったことも含めまして、これから検討していく部分になっています。</p>
<p>平沢会長</p>	<p>ありがとうございます。委員の皆様からはいかがでしょうか。</p> <p>それでは無いようですので、次の第2節「ごみの排出量推計」と第3節「数値目標とモニタリング指標」について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）」第2部第4章第2節「ごみの排出量推計」および第3節「数値目標とモニタリング指標」について説明</p>
<p>平沢会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまのご説明に関しまして、ご質問、ご意見を願います。いかがでしょうか。</p> <p>具体的な数字が出ています。計算式や数値的根拠といった細かいところまでは我々判断できませんが、何かお気づきの点がございましたら、お願いします。</p>
<p>一戸委員</p>	<p>リサイクル率について、第3次計画では、確か20%を目標に進めてきたと思いますが、なかなか数字が上がらなかった現状で、計算式が説明を聞いていた中で分からなかったもので、16.8%、その辺の計算式や下方修正した経緯等を説明していただければと思います。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>今おっしゃったとおり、第3次計画では20%までリサイクル率を上げようという目標を設定しておりましたが、先ほどご説明したとおり、全国的にもリサイクル率がなかなか上がらない傾向が続いています。ただその中でもリサイクル率を下げているかということ、またそうでもない部分もありまして、リサイクルを進めていくことになります。</p> <p>計算式については、分母が燃やせるごみなども含めたごみの総排出量、分子が資源化された量で、分母が減ると率が上がる部分もあり、</p>

	<p>燃やせるごみをどんどん減らして、資源化量が変わらなければリサイクル率は上がるという部分があります。</p> <p>そういうごみも含めてごみ全体を減らしていく、それから資源化も頑張っで多くすることによって、リサイクル率を上げていくというのがある中で、20%の目標にできればいいですが、なかなか今の状況からは現実的でない部分がありまして、少し数字を抑えた中で、目指すべき数値として設定させていただきました。</p>
平沢会長	他に、いかがでしょうか。
委員	(意見、質問等なし)
平沢会長	<p>私の方からですが、数値目標1の668g以下について、この数字の計算式の中に推計人口があります。34ページの四角で囲った式の中に推計人口と書いていますが、これが34ページの下の基本推計の表の中の一番上の項目で「人口(9月末)および推計人口」となっています。これを見ると、2023年は24万1,184人で、どんどん人口が減って行って、一番右端の20万2,600人というこの数字を使っていると思いますが、ごみは人口が減れば、この計算式では減っていくわけで、ごみが減るというのは望ましいことではあります、人口が減るということはあまり望ましくないといひますか、この数字を見て非常に将来も暗いイメージを持ててしまいます。</p> <p>例えば、市役所の他の部署で函館市の人口を増やしていこうという数値目標を立てている部署があつて、人口を増加させるような施策などをここに反映できないかと思ひましたが、いかがでしょうか。</p>
畠山課長	<p>市役所の中で、人口減少対策のセクションがありまして、その中で、人口を減少させないような対策というのは、色々考へて取り組んでいるところでもあります。その中でも、やはり自然減というのはありますし、その取組を反映させていくといひと今現在ではなかなか難しい部分もあつた中で、最新で示されている、人口問題研究所の推計を使用させていただいています。</p> <p>これは中間目標年次の時などに、推計が大きくずれているといひたことがありまして、その時には改定して反映させていきたいと思ひます。</p>
平沢会長	<p>分かりました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p> <p>それでは次に進みたいと思ひます。</p> <p>第5章「基本方針に基づく施策の展開」につきまして、事務局からご説明をお願いします。</p>

<p>畠山課長</p>	<p>「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）」第2部第5章「基本方針に基づく施策の展開」について説明</p>
<p>平沢会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、ただいまのご説明、第5章の部分になりますが、ご意見、ご質問をお願いいたします。</p> <p>本日の審議の中でも特に重要な部分になりますので、積極的なご意見をよろしくをお願いいたします。いかがでしょうか。</p>
<p>柿崎委員</p>	<p>39ページのところですが、情報の普及啓発のところ、「消費期限と賞味期限の違いなどの食品に関する正しい情報の普及啓発」を行っていきたくて書かれています。それ以外にも、冷凍するとか、そういうような方法もあるのではないかと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>柿崎委員のダンボールコンポスト・メイトの講座を見にいった時におっしゃっていたことを言ってくれたかと思いますが、ダンボールコンポストについて市民の方から、お菓子とか入れてもいいのかと柿崎委員が聞かれた時に、それは入れるんじゃないかと、ごみにしないで冷凍保存して、後で食べればいいんですとおっしゃっていた部分だと思います。</p> <p>確かにこの部分では、消費期限や賞味期限の違いなど、と書いていますが、食品ロスを出さないために様々な方法があると思っている中で、冷凍保存についても一つ考えられると思いますので、ご意見として参考にさせていただきます。</p>
<p>柿崎委員</p>	<p>あと、少し外れるかもしれませんが、今日は主婦の立場から、一つ食品ロスのことについて若干思っていることとお話しさせていただきたいと思います。</p> <p>あくまでも、食品ロスというのは食べられるのに捨てるということだと思いますが、私は食べるものは食べきる、どうしても食べきれないものは、私の場合はダンボールコンポストに入れていきます。38ページの取組の中に、冷蔵庫の整理とか、買い物に行く前に整理整頓しながら何を買うかということの話が出ています。</p> <p>今日は自分自身がやっていることとお話させていただきます。私は買い物をした時にレシートをもらいますが、レシートをもらったらそのままにしないで、紙に書きだして、食材を使った時には書いたところに赤線を引きます。そうすると、あと在庫が何個残っているというのがわかりますし、肉の場合も、ある程度大きな塊で買って、それを量りながら小分けにして冷凍します。そして、毎日作る料理に合わせてその分けた部分を使うと、無駄がなく全部使えます。そうすると、</p>

	<p>今自分の家の冷蔵庫の中の在庫がはっきり分かりますし、いちいち冷蔵庫を開けることなく、紙を見ながら何があるか把握できます。また、冷蔵庫を一定時間開けることによって、冷気も下がってCO<sub>2</sub>も発生します。</p> <p>私は自分の家の家計簿のほかに、環境家計簿というものもつけています。電気・ガス・水道・灯油・ガソリンのそれぞれの係数が決まっているんです。その係数を使用量にかけるとCO<sub>2</sub>の排出量が出ますが、自分が1か月、電気を使った時にいくらのCO<sub>2</sub>を出しているかということがはっきりと分かります。それも私は30年間続けてきていますし、またそういうふうにして、買ってきたものも大事に食べる。ですから、日本人の素晴らしい言葉に「もったいない」という言葉がありますし、また、食品を「いただきます」ということが、魚や野菜にしてもそれぞれの命をいただく、最後は「ごちそうさま」でありがとうと言う。そういうことを私は、市の方から講師として年何回かさせてもらっているダンボールコンポスト講習会などの時に、ただ単なるダンボールコンポストではなくて、環境への配慮や食品ロスの部分についても、食べることができるものは無駄なく食べる、命を大事にしながら食べるということも考えながらお話しています。</p> <p>あともう一つ私がずっとやっているのは、例えば醤油や味噌など調味料についても在庫調べをしています。毎月在庫を確認して、足りない分だけ補充する。塩にしても1kg分買ったら、大体1年はもつ。そういった部分を今日は女性の方が少ないですが、男性の方もできれば奥様だけに任せるのではなく、我が家のこととして、少し目を向けていただければ、たぶん食品ロスの部分については函館市も少しずつ少なくなっていくと思いますし、食べ残しも減っていくと思います。</p> <p>そうすると、生ごみの排出量も減っていきますし、またそれだけ今度は、焼却炉も長持ちがしていくという、ある意味では循環型社会のことも考えながら、頑張っってやっていきたいと思います。</p> <p>最後に、事務局の方にお礼ですが、今回の資料を作っていただくにあたって、たぶんすごくご苦労なされたと思いました。そしてそれを見て、数値目標となった時に、本当に市民の一人ひとりがもっと今の数値目標に近づけるような生活態度を努力していこうと思うのではないかとことをすごく思いました。</p> <p>ありがとうございます。以上です。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>具体的な実践例をご紹介いただきました。大変役立つと思います。</p>

	<p>まさに今おっしゃられたことは環境教育そのものだと思いますし、小学生向けの食育にも通じるところがありますし、まさに教育啓発という部分で、こういった実践例のお話、副読本じゃないですが、何かの教育的資料として記載して学校教育現場で使っていただけるようなことになったらいいと思いました。</p> <p>その関係で、38ページの下から二つ目の「教育や学習における周知啓発」という項目がありますが、これは「食品ロス削減の推進」の枠の中にあり、41ページの基本方針3にも子どものことが書いてあって、「環境教育副読本の配信」、その下の「環境活動等の実施」、この辺りが被っているような気がするので、食品ロスの部分だけに書くのではなくて、38ページの上の「生ごみ減量化の推進」というところにも書くべきかと思いましたが、そうすると、基本方針3ともまた被るので、書く位置を何か工夫していただけるといいかと思いました。基本方針3に書くことで全部網羅されているので、それだけでもいいかという気もします。ただ被ってしまうというのが気になったところです。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>改めて検討させていただき、整理したいと思います。</p>
<p>一戸委員</p>	<p>細かいことですが、41ページ、環境教育副読本、これまでも取り組んできたと思いますが、自分も今の職場に来る前は小学校の方に勤務していたもので、それでこの環境教育副読本が現場でどのように活用されているかというところが、なかなかきつと押さえられていない。自分も現場にいた時には、色んな副読本が配信されてきましたが、それを決められた授業の中でこなして、子どもたちにも教えていくことが非常に難しく、教える内容も増えてきていますので、この内容の精査とか、そういう調査をすると学校にまた負担をかけますが、どのように活用されているか、今のお話のような、冷蔵庫のチェックとかそういうのを入れた方がいいという声を聞いて、改善、改訂していくのも一つかと思いました。</p> <p>それと、総合学習という科目は厳密にはないので、すごく長い名前ですが、「総合的な学習の時間」という教科なので、そこをもし教科名で書くとしたら変わってくるかと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>すみません。総合学習の部分は勉強不足でした。</p> <p>副読本の使い方の件は、学校の先生たちの負担にならない範囲の中で、検討していきたいと思います。</p>

平沢会長	<p>環境問題は、学校教育では、非常になじみやすいといいますが、取り組みやすいといいますが、生徒たちにも身近な問題ですし、家庭でこう考えてもらいたいという部分がありますので、ぜひ、副読本を活用して学校教育の場で、取り組んでいって欲しいと思います。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p>
宮下委員	<p>基本方針1の中の「食品ロス削減の推進」の中で、39ページの「食品ロスゼロ推進店事業の実施」です。これについて、「安全に配慮した上で食べ残してしまった料理の持ち帰りに取り組む飲食店」とありますが、これは持ち帰りだけなのかという思いをしていました。この間、ホームページを見たらいっぱいあって、食材を使い切る工夫、食べ残しを出さない工夫、食べられないものなどを確認する、先ほどの冷蔵庫をあまり開けない方がいいというものもある。他にも、宴会、冠婚葬祭での食事等における工夫など、色んな工夫の仕方があると思います。それで、持ち帰りだけの推奨にこだわらないで、店側でハーフサイズの料理を出すとか、小盛りとか、あとはSMLサイズとかって、食べられないのに同じ量を提供するのではなくて、もっと柔軟に提供していく方法とか、飲食店で色々まだたくさんやれることはあると思います。そういうのを逆に飲食店に教えながら、実際に実践している飲食店もありますが、そういう方々も対象店にしてみてもどうかという気がしました。</p> <p>それと、同じく基本方針の1で、40ページの「リユース事業者による再使用の促進」ですが、このリユース業界というのが今、3兆円規模だという話を耳にしました。今ここに書いてある中身を見ると、どういうことをやっていくのかというのが見えない。例えばリユース事業者と協定を結ぶとか、そういう事業者と連携しながら、進めている市町村もあったりしたので、面白いなと思いました。今では、市長の使っていた車が古くなったからリユースに出す、こういうのも出ている状況にあります。このような中で、市として、このリユース事業者による再使用の促進というのは、どういうイメージなのかお聞かせ願えれば嬉しいと思います。</p> <p>あと、同じく40ページ、基本方針2のプラスチック使用製品廃棄物ですが、プラスチック容器包装、こちらの方は大変進んでいいのですが、プラスチックは地球規模の問題がある中で、やはりその他のプラスチックの関係も処理していく必要が絶対的にあると思います。これはお金がかかるものだと思いますが、プラスチック容器包装の場合は、ちょっと金額を忘れちゃったけど、8割9割事業者さんが出て、</p>

	<p>市町村が1割負担か2割負担，小さな負担で済む。でも，その他のプラスチックの場合は，おそらく全額市町村負担になるという中で，取り組むことはすごくいいことなので，予算の都合もあるでしょうし，収集体制も構築しなきゃならないなど，また大変なことにもなると思います。ぜひこれをやっていただきたいという思いが個人的にはあります。これも調べたら面白いですが，他都市でその他のプラスチックとプラスチック容器包装それぞれ分別して出すところもあれば，プラスチック容器包装とその他のプラスチックを一緒にして資源ですからって出すところもある。一緒に出すのであれば，収集体制を大きく変更しなくてもできるというような検討も併せてしていただければいいという気はしています。</p> <p>以上3点ほど，市のお考えを聞きたいと思います。</p>
<p>畠山課長</p>	<p>まずは，39ページの食品ロスゼロ推進事業です。今現在取り組んでいる事業ではありますが，現状を申しますと，持ち帰りに特化した部分でしか，やっていないところです。今，宮下委員の方からご意見がありましたとおり，例えば小盛りですとか，そういうところに取り組んでいる飲食店さんもある中で，食品ロス削減をより一層進めるために，できるだけ対象の取組を広めていければと思っています。</p> <p>それから，40ページの「リユース事業者による再使用の促進」の部分です。これについては，現時点ではまだ取り組めていない部分にはなっていますが，今後，フリマアプリなどの情報サイトの周知というのをまずはやってみたいと思っています。市民が不要になったものをただ捨てるのではなくて，そういうサイトなどを利用してごみにしないという部分の紹介をしていければと思います。周知しないで欲しいというサイトもあるかもしれませんので，情報収集をしながら進めていきたいと思っています。</p> <p>最後のプラスチック使用製品廃棄物の部分ですが，宮下委員，色々調べていらっしゃると思って聞いていましたが，まさにおっしゃるとおりでして，色々処理の方法とか収集運搬とか様々な課題がある中で，なんとか進めたいということがありまして記載したところであります。様々な課題について，今後，整理していきたいと考えています。</p>
<p>宮下委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ぜひプラスチックは積極的に頑張ってくださいと思います。</p> <p>それからリユース事業者による再使用の促進というのは今ご説明していただいて分かりましたが，もう少し表現といいますか，文章的にちょっと分かりづらいなど。例えば，先ほども言いましたが，フリマ</p>

	<p>事業者と連携をしていくために協定を結んでいくとか、もう少し具体的に分かりやすく表現したほうが良いという気はします。</p> <p>あと、食品ロスゼロ推進店については持ち帰りだけにこだわらず、小盛りメニューなども対象にして増やしていくと、もっと手を挙げる事業者、飲食店が増えると思います。函館市のホームページを見たら、20数店舗です。でも、一部のグループ全店を除くと、まだまだ少ないです。そういうのからすれば増やすためにも、そういう違う観点で努力している飲食店を対象にして、あなたは大変よくやっていますと推進店に認定しますという形の方が、もっと手を挙げる飲食店が増えると思っています。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございます。その他、何かありますか。</p> <p>基本方針の4についてまだ出ていないですが、いかがでしょうか。</p>
宮下委員	<p>基本方針4の「適正分別排出指導の推進」、ごみ収集日カレンダーなどの配布、その後ろにもホームページやごみ分別アプリさんあ〜ると書かれています。私の町会の話なので大変恐縮ですが、町会でもホームページを作って、いざ出すと、見る人がいないです。というのは、ホームページを見るためには、パソコンがあると見やすいですが、携帯電話ではホームページがなかなか見づらい。そうすると、ホームページは見えてくれない。ということは、ホームページに情報を載せたにしても、もっと目につきやすいものに載せたほうが良い、というのは携帯電話です。携帯電話は嬉しいことに、QRコードを読み取ると、すぐにそこにとんでいけるので、例えば、ごみ分別アプリさんあ〜るのQRコードをごみ収集日カレンダーの中に入れるといいと思います。たまたまごみ収集日カレンダーを無くした人にあげてしまって、インターネットでホームページからダウンロードしましたが、空白になっている部分があるので、分からずに話していますが、それがあればいいと思います。もし既にQRコードが入っていたら、申し訳ありませんが、教えてください。</p>
小林部長	<p>現在のごみ収集日カレンダーには、QRコードが入っています。</p>
宮下委員	<p>分かりました。</p>
平沢会長	<p>他に何かありますか。</p> <p>いいですか。時間もだいぶ進みましたので、次に進めてまいります。</p> <p>第3部「生活排水処理基本計画」になります。事務局から願います。</p>

畠山課長	「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）」第3部「生活排水処理基本計画」について説明
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今までのごみの場合とは少し違って、ごみの量を減らそうなどという目標ではないです。生活排水処理率を92.9%以上にするという、そういうタイプの目標になっています。</p> <p>皆さま、何かご意見をお願いします。</p>
委員	(意見、質問等なし)
平沢会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ここまでで、素案につきまして、審議が終了ということになります。</p> <p>本日、皆様からいただいたご意見をもとに、私と事務局とで協議しまして、答申に向けた準備作業を含め、今後の進め方を調整させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	はい。
平沢会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ではそのように進めさせていただきます。</p> <p>続きまして、議題の(2)その他ですが、事務局の方からありますか。</p>
畠山課長	<p>8月に開催しました審議会で皆様をお願いしていましたことにつきまして、今年の10月に日乃出清掃工場の全ての焼却炉が停まりますということで、ごみの減量などをお願いさせていただきましたが、市民や事業者の皆様のご協力によりまして、想定を超えるごみの減量が図られ、無事に休炉期間を乗り切ることができました。</p> <p>この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>来年度、再来年度につきましても、また休炉期間がありますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も気になっていたので、私の学校でも、クラスや教室でごみをあまり出さないようにしていました。</p> <p>他に事務局から何かありますでしょうか。</p>
高橋主査	<p>後日、今回の審議会の議事録を作成しまして、ホームページ上で公開する予定となっております。本日出席の委員の皆様には、公開前に議事録のご確認をお願いしたいと考えております。</p>

	<p>後日議事録の案を作成しましたら、送付させていただきますので、お手数おかけいたしますが、ご確認のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、次回の審議会についてですが、できれば今月中に、もう一度開催できればと思っておりますため、後日改めて日程調整等のご連絡をさせていただきますので、そちらの方もよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
平沢会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>予定していた議題は以上となりますが、この他に、皆さまから何かございますか。</p>
委員	(意見、質問等なし)
平沢会長	<p>それでは以上で、令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会を終了したいと思います。</p> <p>皆様のご協力により、スムーズに進行し、活発なご意見を伺うことができました。本日はありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
高橋主査	<p>平沢会長どうもありがとうございました。</p> <p>委員の皆様、本日はお忙しいところご出席いただき、また、たくさんのご意見を頂戴しまして、誠にありがとうございました。</p> <p>以上で本日の審議会を閉会いたします。長時間にわたり、どうもありがとうございました。</p>